

子ども会（学習会）だより

MY SKY No. 36



1998年3月10日火曜日発行（毎週火曜日子まぐれ発行）

発行者

板野中学校

学習会

編集・文責・吉成正士

以前掲載した「狭山差別事件」を、みなさんは覚えているでしょうか？あの裁判が再び行われるかどうか、この夏に決定する予定です。みなさん、特に卒業していくみなさん、どうかこのことを心に留め、決定に注目しておいてください。再審請求が受理されるということは、長い長い年月を越えて、無実の罪がはれることを意味します。部落差別という屈辱と悔しさがはらされることを意味します。その時は、差別を憎むすべての人々と共に、涙を流して喜び合いたいと思います。悔し涙ではなく、うれし涙を流しましょう……！！



☆ 学習会生徒のみなさんへ

1・2年生の学年末試験、3年生の徳島県公立高校入学試験、そして今週土曜日の卒業式をひかえ、今年度の学習会もとうとう終わろうとしています。その締めくくりとして、今週木曜日には一日研修・3年送別会を兼ねての閉講式が行われます。場所は岡山県で、中身は渋染一揆現地研修とチボリ公園です。

今年度初めの開講式の時も言いましたが、「式」というものは、何をおいても厳粛に参加すべきものです。本当なら全学習会生徒が参加して、3年生の先輩たちを送り出すべきものです。残念ながら参加できない仲間もいるようです。それはそれで仕方ありません。でも、参加できない人もそのことだけは覚えておいてくださいね。

さて、今回の研修に先立ち、夏に行った大阪羽曳野市の県外一泊研修を振り返っておきましょう。まず、大阪人権博物館「リバティおおさか」へと行きました。その中で、木村美代志さんというおばちゃんからお話をいただきました。小さい頃のお話から若い頃のお話と、たくさんのお話を聞くことができました。なかなか聞くことのできない、貴重な体験談でした。その木村さんから実は手紙が届いていましたので、この機会に紹介しておきます。

前略 暑さ寒さも彼岸まで。昔の人が言った言葉のように田の辺、土手などに今が盛りと真っ赤に咲いている彼岸花が目にしみるの頃です。先生、この間はありがとうございました。朝早く徳島と出発して人権博物館に着き、ホールにゆったりすわ

った学生さんのお顔ながを眺めながら、私のような年今の者がどういふ風ふうに話しかけたらいいのか迷いながら、私の小さい頃、運動に参加して頑張った頃、人の痛みを感じる心、私も少しあがって思っていたことなどを話させていただきました。少し疲れて眠気ねむけがおそってきた事などを正直に書いた生徒さんの感想文を、今日一枚一枚読ませていただきました。人をいじめたり言葉で人を傷つけたりせず、人の痛みを知ることでできる学生さんになってくださることを信じてながら……。人生は一回きりですものね。差別いかにに怒り、それでも前向きに進み、努力し、眠いなかでも聞いて心の中に留めてくださったことに涙が流れる思いです。常日頃の先生方つねひごろの、同和教育へ傾けるご努力のおかげだと感謝します。一人一人の学生さんにお礼状を出したいのですが、無学な私には書けませんので、先生の方から学生さんにお礼を言ってくださいね。私も、またこの学生さんの声を聞きたい、語り合いたいと思います。私もよい勉強にもなりました。この感想文は宝物たからものとして多くの感想文の本に、また新しく一ページとして組ませていただきます。いつかまたお会いできる日を楽しみに、毎週金曜日にリバティで頑張っています。お写真どうもありがとう。大切にします。遅くなりましたが、まずはお礼状まで。

木村美代志

この後、羽曳野中学校の生徒と交流を行いました。その中でわかったことは、

「きちんとした心構えが必要！」

ということです。「生活面」は特にそう感じました。出会いや朝夕・お礼や感謝のあいさつ。靴・スリッパやカバンの並べ方。また準備や片づけ時の気の利いた行動。目につくことがたくさんありました。それらの反省にたつて、日頃から教育にあたっていかなければいけないと感じました。

「外に出て行けばそれなりの行動はとれるだろう……」

というのは、大人側の浅はかな考えだったのです。やはり、きちんと教えるべきことは教えなければいけません。生徒のみなさんは、教わらなければいけないということです。

また、「語る」ことについてもそうです。日頃から語る機会を増やし、語ることを鍛えておかなければいけません。語るための心も鍛えておかなければいけません。その鍛錬がないのに、語るなんてことはできませんよね。そのためには、毎日毎日自分を見つめる作業が必要となってきます。一番身近な方法は、「生活ノート」ではないでしょうか。

生活ノートとは、教師と生徒の交換日記のようなもので、生徒が一日の出来事や悩みなどを書くなかで互いの信頼関係を築いていく取り組み。

「あゆみ」という連絡帳もありますが、残念ながら書けるスペースは6行と小さく、十分なやりとりとはならないのが現実です。

「何をしゃべっていいのかわからない」「何を考えていいのかわからない」

これではちょっと寂しいですね。そうならないために、常に「今の自分」「過去の自分」「これからの自分」「自分の家族」など、自分の身近なことや、「周りの友達」「周りの地域」など、社会を広く見渡す必要があるのではないのでしょうか。こういった日々の実践が深まると、どこに行ってもどんな問題にあたっても、冷静に対応できるものです。みなさんも、そんなステキな人間になってみませんか？

ある学習会の保護者が、次のような文章を寄せてくれました。保護者の願いとして、みんなできっちりと受け止めていきたいものです。

いつもお世話になっています。学習会……一年生になりたての頃、小学校時代と同じような思いで二度、三度出席し、その後は「誰も来とらん」とか言って行かなくなりました。それでも近頃は、友達と約束しては少し早めに出かけているようです。

私は自分自身の考えなのだけど、「勉強は次。一番大切なのは、友達関係」だと思っています。勉強がいくらできても友達がいないとおもしろくないだろうし、何より悩みの多い年頃になり、親に言えなくても親友なら一緒に考え、それを言い合い解決していけると思います。

でも何よりも、先生との出会いが大きく左右していることも確かです。口では反発し、かわいくないと腹の立つこともあると思うけど、本当に先生方と出会えたこと、そしていまだこんな熱血先生がいたとうれしく思います。ただ一つ、学習会へ行くと行ってよそでぶらぶらしたりしないか変に気を回してみたりして、余計な心配もしています。

まだまだ先の長いことなのだけれど、同和問題について親子で意見発表みたいな場を作りたいです。どこまで素直な気持ちで同和問題を学んでいるのか、この子たちはどういう風な考えを持っているのか、少し心の中を覗いてみたいです。

私たちは、放っておくと自分にあまくなるものです。でも、そんな自分ではいけないことも、同時に知っています。

「わかつちゃいるけど、やめられない」

というコマーシャルがありました^{まさ}が、正にそうですね。そんなとき、気持ちがゆるみかけたとき、ゆるんでしまったときに必要な^{そんざい}のが、友達の存在ではないでしょうか。いつでも、友達の質も問題になってく^{ゆる}ると思います。何でもかんでも許し合える^{のぞ}のが望ましい友達関係とは思えません。互いが鍛え合える^{きた}ような関係になったとき、初めて互いの本心^{のぞ}がわかり、本当の意味でつながれるのだと思います。みなさん、自分の本心を打ち明けられる友達は何人いますか？そんなつながりを、より広めていきたいものです。差別を許さず、差別と闘い、なくしていくようなつながり、つまり人間同士が尊敬できるようなつながりを広げていきたいものです。

板中の卒業生で、解放(同和)奨学金を受けながら、きっちりとその自覚^{じかく}を持ち「差別をなくす活動」を続けている先輩たちがいます。この奨学金を受けている高校生の集会が毎年行われているのですが、徳島県という単位で行われているのが「県 奨^{けんしやう}」と言われ、全国という単位で行われているのを「全 奨^{ぜんしやう}」と言っています。昨年、その全奨というすごくごく大きな舞台で司会をした板中の先輩がいました。本当に大変なことです。その時の感想^{まじ}を交えて、これからの地元板野、自分のあり方を書いた文のある新聞から見つけましたので、読んでみてください。

運動
自分が
を変え

今回、最後の全奨に司会者として参加しました。「高校生生活と進路」をテーマにさまざまな質疑・討論がありました。印象に残っているのは、京都からの発言で「差別を受けたことがないけど、自分の仲間が差別されたことを打ち明けてくれたうれしかった」というのを聞いて、心の底から信じて、何でも話せる仲間^間っていいなあと思いました。

また、広島から「解放研のない学校に解放研をつくった」という発言を聞いて、驚きました。なぜ驚いたかというと、僕は学校で活動するのが怖いからです。でも、それが部落差別のひとつだと思っています。広島では、それに打ち勝って、活動しているのに、自分はまだまだ弱い人間だと思ってしまう。そのほか、いろいろな発言があったけど、印象

が強かったのが「解放運動とタバコ」の問題でした。三重からの発言で「解放運動するのにタバコをやめよう」というのにたいし、奈良、広島が「この運動をする人間は、まじめじゃないといけないのか」と、討論になり、司会者としてではなく、一人の人間として話し合いを止めました。

解放運動に必要なのは、差別をなくすという「やる気」と差別を許さないという「怒り」だと思います。タバコを吸えば吸った人が悪いだけで、解放運動するのに関係ないと思いました。部落といわれるからタバコをやめようではなく、その考えを正していくのが運動です。本当に悪いと思うならやめればいいと思います。

三年間、この運動をしてきて、本当に良かったと思います。自分がすご

人間は、わからないからわかろうとするんですよね。「わかってないからダメだ！」なんていうことはないはずですよね。わかろうとする謙虚^{けんきょ}な気持ちが大切なのではないでしょうか。謙虚な気持ちを忘れ、いつの間にか自分が偉い^{えらい}ような勘違い^{かんちがい}をしてしまうと、わかろうとすることができません。つまり、そこで成長がストップしてしまいます。残念なことです。意地^{いじ}を張って自分の殻^{から}に閉じこもってしまうのはもったいのないことです。

みなさん、一緒にやりましょうよ！そして、もっともっと解放された自分になってみましょうよ！そうすれば、今までいろんな事にこだわってきた自分が小さく見えてきますよ。

みなさん、これから一緒にやっていきましょっ！！

人の世に熱あれ！ 人間に光あれ！！

▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼



私、吉成の作るMY SKYも、本号にて最後となりました。

今まで3年間、私が好き勝手^{かって}に作り続けてきましたが、ご愛読^{あいどく}本当にありがとうございました。(かといって、来春から板野中学校にいくというわけではありませんので、間違えなく)何しろ支え^{ささ}となってくださったのは読者のみなさんでありまして、これからもいろんな場面^{ばめん}でみなさんに出会うこともあると思いますが、そのときはお気軽^{きがる}に声かけよろしくお願いします。なにしろ学生の頃から、「お金とか土地とか家とか、形あるものが本当の財産^{ざいさん}ではない。人と出会い、話し、つながることが財産だ」と思い続けている人間の一人ですから……。もし、「こいつ！これまで書いてきたことと、やってることが違うぞ！それはおかしいぞっ！」と思うことがあれば、だらしな私をぜひ叱咤^{しっただ}してください。よろしくお願いします。

MY SKYの編集に終止符^{しゅうしふ}を打つということは、なんか、卒業するような気分です。結構感^{けっこうかん}慨^{がい}深いものがあります。一人でもの思いに浸^{ひた}ってしまうような、そんな気分です。卒業生のみなさんも、きっと似たような思いなんでしょうね。これからも、この板野中学校で学んだことが無意識^{むいし}のうちにどこかで生きればよいなと思います。

「さよなら」は嫌いだから言いません。代わりにこの言葉を……

じゃあ、またね！！

★ ☆☆ ★★★ ☆☆☆ ★★ ☆☆ ★

3月10日(火)・11日(水) 徳島県公立高校入学試験

12日(木) 学習会閉講式(渋染一揆資料館・現地研修、チボリ公園)・学校代休

14日(土) 卒業式

20日(金) 「同和教育・部落問題」勉強会(19:30～；郡頭教育集会所)

24日(火) 修了式

「1997 MY SKY」を編集し、一冊の本として製本します。ご希望の方は学校までご連絡ください。